

大場

新庄北

つかんだ初王座

女子5キロクラシカル



渴望した初タイトルを手にして「ほっとした」。距離女子5キロクラシカルを制した大場友咲（新庄北）の素直な思いだ。前日の5キロフリーは波に乗れないまま5位に沈んだだけに、「得意種目だけは絶対に負けたくなかった」。懸ける思いが強かったからこそ表情には喜びよりも安堵（あんど）の色が広がった。

高低差79メートルの起伏に富んだコースで前半の上り坂を勝負のポイントに絞った。序盤から軽快にピッチを刻み、1キロ付近の急斜面は「気が緩むと疲れが出てしまう」と、直前の下りのスピードを生かして一気に駆け上がった。1・5キロ付近から2キロ過ぎまでのなだらかな上りも競い合いながら我慢の滑りに徹した。



得意種目 勝利へ思い強く

先にスタートした選手を次々に捉え、手応えを感じながらのレースだったが、ラストの下り坂で「秒差で負ける」との声を奮い立った。「最後は必死でした」。焦る気持ちを抑えつつ、懸命に

体を動かしながらフィニッシュラインを滑り抜け、2位と4秒2差の接戦をものにした。

フリーでは気持ちと体の動きが噛み合わなかったが、今回は「納得の滑りができた」と好感触を

得た様子だ。昨年の全国高校選抜大会のスプリント・クラシカルで入賞を経験した実力者。今回の勝利で自信を深めた2年生は「今年こそインターハイで入賞」と意気込んでいる。（須藤 仁）

〈距離女子5キロクラシカル〉優勝した大場友咲（新庄北）
＝上山市・坊平高原クロスカントリ―競技場